フィリピン共和国サンタロサ市における「宇部方式」の精神を生かした環境改善システム研修事業

●協働先NGO／NPO

宇部環境国際協力協会

（財）自治体国際化協会 自治体国際協力促進事業 助成対象事業

実施地域

フィリピン（サンタロサ市）

臭気測定法実習

事業実施期間

2008年度～2009年年度

協力形態

事業協力

実施内容

宇部セメント工場でセメントキルンによる資源リサイクル設備を見学

サンタロサ市の現状把握のため、現地調査を実施した。
また、「宇部方式」の理念に基づく、企業・行政・学識者・住民の連携による環境保全対策及び下水処理施設の管理手法、企業・大学等の大気・水質の管理手法及び廃棄物リサイクル事業の講義見学などの研修を実施した。

事業目的／背景

本事業では、環境問題に直面しているサンタロサ市の環境改善を図るため、「宇部方式」により公害問題を克服した経験を持つ宇部市において、産・官・学・民のパートナーシップを基調とした環境保全対策を中心に、大学や企業における環境保全への取組みについて、サンタロサ市の環境行政官、企業の代表者、学識者などに伝え、同市の環境問題の解決や、「宇部方式」による環境改善システムの定着を図ることを目的とする。

協働のきっかけ

宇部環境国際協力協会は、「宇部方式」による取組が国際的にも高く評価

され、1997年国連環境計画（UNEP）からグローバル500賞を贈られたことを機に、地球環境の保全活動へ積極的に貢献していくために翌年設立された。グローバル500賞受賞維持活動の一環として、協働を開始した。

山口大学講義

役割分担

自治体側：

市関連の講義等の実施や講師との連絡調整、開講式・閉講式等の会場手配や段取り、広報に関することなど。

NGO／NPO側：

研修員や研修受入れ企業等との連絡調整、通訳の手配、テキストの準備、市民との交流の場の設定、開講式・閉講式等の準備や送別会の段取りなど。

宇部方式とは

　宇部市は、かつて戦災により市街地の大半を焼失したものの、再建にかける市民の熱意と石炭景気に支えられ、順調な復興を遂げましたが、産業の発展とともに、企業の石炭使用量が増加し、その結果、洗濯物も干せない、窓も開けられないほどのばいじん汚染が問題となり、1951年に計測された一月当り、一平方キロメートルに55トンという降下ばいじん量は、当時世界で計測が行われていた都市の中では、一番多い量と報道されました。そこで、市民の生活環境を守るため、1951年には、全国に先駆けて、条例に基づいた「産・官・学・民」からなる「宇部市ばいじん対策委員会」を設置し、相互信頼・連帯、科学的データに基づく話し合い、情報公開の4つを基本とした、全市民が一体となった『宇部方式』という独自の公害対策により、ばいじん汚染を克服しました。現在もこの伝統は、宇部市の市政及び市民活動において活かされています。

協働によるメリット等

メリット：
・経験が豊富で、異動がない分、過去の経験が活かせ、海外との連絡調整がスムーズになる。
・役割分担することで事業展開が早くなる。

協働する上で配慮した点

・分担が曖昧にならないよう文書で確認した。

事業実施までの問題とその対応

・海外との連絡調整がなかなかうまくいかず、時間を要した。

事業実施後の問題とその対応

・技術や理論を十分に習得・理解するには、2週間の研修期間は短かったと考える。限られた期間であるため、密度の濃いカリキュラムとしたため、現地調査を含めフォローアップを図りたい。

事業評価／今後の展望

産官学民の協働、環境保全協定の内容についての理解を深めることができた。また、日本の環境技術、環境管理体制などを学ぶことができた。
今後、サンタロサ市においても宇部市の環境審議会のような組織を発足させ、環境状態調査の実施や産業と自治体とのネットワーク化などを図っていく。

宇部環境国際協力協会

『宇部方式』による公害対策が評価され、宇部市が「グローバル500賞」を受賞。これを踏まえ、1998年8月に環境先進都市として国際的視野に立って地球環境の保全活動に積極的に貢献していくことを目的として、民間組織として発足した。